

有事に備えて

日頃の訓練成果を遺憾なく発揮

消防の基礎訓練を演習し、規律正しい消防技術と団体行動の敏速適正を図るとともに、消防人としての資質の向上と士気の高揚を期し、本町消防組織の強固なる団結を図り有事に対処することを目的に、平成19年度南富良野消防総合演習が6月24日、消防職員・団員合わせて85名が参加するなか、幾寅小学校グラウンドを会場に行われました。



金山小大久保校長に表彰状が授与された

開会式では、4月23日に金山市街地で発生した爆発事故において、逸早く現場に駆け付け、全身火傷している負傷者に適切な応急手当を施した金山小学校に対し、富良野地区消防組合長（池部町長代読）から大久保義隆校長に表彰状が授与されました。

引き続き、陸上自衛隊上

富良野駐屯地第四特科群第131特科大隊の特別参加により、自然災害を想定した堤防の決壊を未然に防止する水防工法、月の輪工法の展示訓練が行われました。



自衛隊員による水防工法

救急救命士による展示訓練では、人は心肺停止に陥ると約3分で50%は死に至ると言われていることから、その時間的制約を解消するため、その場に居合わせた人の心肺蘇生法の重要性和救急救命士による除細動（電気ショック）と心臓の動きを活発にする薬剤投与が医師の指示下で、実施できるよようになったことから、これらを併せた迅速な救命

処置を本番さながらに展示来賓や見学していた町民の皆さんは、初めて見る訓練に固唾をのんで見守っていました。



救急救命士による展示訓練

このほか、各分団による小隊訓練やポンプ操法、模擬火災訓練などが行われ、日頃の訓練の成果を十二分に披露しました。



模擬火災訓練

平成19年度 本部町・南富良野町親善交流事業
南の国の真夏に挑む体験の旅



「友好の町」沖縄県本部町との間で平成3年から行われている親善交流事業は今年で17回目を迎え、「南の国の真夏に挑む体験の旅」として、6月25日から29日までの4泊5日の日程で、南富良野町交流団（各小学校6年生児童31名・随員5名）が本部町を訪れ、南国沖縄の暑さと文化を体験しました。

6月25日、午前5時30分頃に本町を出発した交流団一行は、飛行機を乗り継ぎ、午後6時すぎに本部町に到着。皆さまの熱烈的歓迎を受け、表敬訪問や歓迎夕食会に出席し、児童達は、体験の旅での抱負を元気に述べたり、約5カ月ぶりに再会した本部町の児童と交流を深めました。

翌日からは、伊豆味パイン園や上本部小学校児童との交流、バナナポート体験のほか児童の皆さんが一番楽しみにしていた海水浴、美ら海水族館の見学などを行いました。

3日目の夜には、ホームステイ先の家庭で、家族との交流を深めました。

4日目には本部町を離れ、ひめゆりの塔、平和の礎などを見学し、沖縄の歴史について学習し、翌日帰町しました。

7月9日に行われた解団式では、児童一人ひとりから発表があり、海水浴やバナナポートの体験、美ら海水族館の見学が思い出になっているという声が返ってきました。

また、本部町児童との交流やホームステイを通してたくさんの方々ができたとの声もありました。

来年の1月28日からは、本部町交流団が本町を訪れ、冬の北海道を体験する予定です。